

## 研究会活動支援制度 研究成果報告書

Graduate Student KENKYUKAI-KATSUDO Grant (Grant for Student Research Societies)

Research Report

提出日 2026 年(year)3 月(month)1 日(day)

所属/Affiliation	◆研究科/Graduate School: <u>国際関係研究科</u> ◆回生/Year Level: <u>博士課程前期課程 2 回生</u>
学生証番号/Student No.	5521240002-4
フリガナ/Name in KATAKANA	イノウエ ケント
代表者氏名/Representative	井上 堅斗
研究会名/Name of Society	中東・イスラーム地域研究 院生研究会 / Graduate Student Society for Middle Eastern and Islamic Area Studies (GSMEIAS)
研究テーマ/Research Theme	中東・イスラーム地域における政治・経済・社会研究のための方法論的検討を通じた実証研究の高度化、そしてその成果を論文として着実に発信していくための方法の探求

## 1. 研究会評価/Self-evaluation of the Society

当該研究会の成果について、次のいずれかをチェックし、評価を記入してください。

Please evaluate the progress of the society's research in this academic year by checking the appropriate box (✓) below. Also, write overall evaluation/ comments on the research conducted by the society.

期待以上の研究成果があった / The progress was more than expected.

期待通りの研究成果があった / The progress was as expected.

ある程度の研究成果はあった / The progress was made to some extent.

その他 / Others ( )

## 【評価】 Evaluation /Comments

本研究会は、中東・イスラーム地域を対象に研究を行う大学院生・若手研究者が、各々の遂行する実証研究の更なる高度化を図ることを目的に、一昨年度より継続して活動を行った。本年度は特に、下記 4 種類のワークショップ等を軸において活動を行った。

- ① (メンバー自身の「書く」活動に資するための) 読書会ワークショップ
- ② 対面形式での研究報告会
- ③ 「タネゼミ」
- ④ 論文進捗報告会

前年度まで研究会代表を務めた米田に代わり、今年度からは新たに井上が代表を務めたが、その引き継ぎや研究会運営は円滑に進められた。

以下、各ワークショップに対する評価を示す。

① 読書会については、イスラーム主義分科会が採択期間以前も含めて月 1 回のペースで活動を続けた。今年度は特に、メンバー自身の「書く」活動に資することに重点を置いた。各回では、講読文献の内容について参加者各々が異なる視点から意見を発し、そこから各自の研究や論文執筆におけるヒントが見いだされる有益な企画となった。他方で、その他の分科会、とりわけ政治学分科会は共同開催の 1 回にとどまった。読書会のテーマ(分科会)は昨年度以前から引き継がれているものだが、所属メンバーの変化につれて各自の研究関心も変化している。このことを踏まえ、読書会テーマ(分科会)の再編を行うなど、本企画が各自の研究にとって有意義なものにする取り組みを実施していきたい。

②対面形式での研究報告会については、2月18日に立命館大学東京キャンパスで開催された。今年度は10名が報告を行い、各自の発表に対してメンバーからフィードバックが提示された。いずれのメンバーの研究にとって充実した会となり、各人の今後の研究、および論文執筆・投稿に向けた良い機会となった。来年度も開催する予定である。

③「タネゼミ」については、助成対象期間外においても、これまでメンバーから希望が出次第アドホックに開催してきた。今年度の採択期間中は、修士論文を執筆する3名のメンバーを対象に、「修論タネゼミ」を行った。そこで得たフィードバックを基に各々執筆を進め、最終的に全員が修士論文を提出できた。その内容を基にして論文を投稿することや、更なる研究の糧となることが期待された。

④論文進捗報告会については、研究会の企画として正式に設置したものの、活用するメンバーは限られた（10名近くいるなかで、主に3名が活用）。しかしながら、月に2回締め切りを設け、目標を事前に申告してその締め切りまでに書いているところまでを共有する、という会の仕組み自体は、活用しているメンバーからは好評を得ており、実際に書き物としての業績の投稿に繋がられたりした。

## 2. 研究会開催報告／Report of Society Event

①	◆開催日／Date of Event	2025年(year)10月(month)4日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	読書会企画（マイノリティ・非国家主体分科会）
	◆概要／Summary	本マイノリティ・非国家主体読書会では、『 <i>Minority Politics in the Middle East and North Africa (Ethnic and Racial Studies)</i> 』を講読対象の文献とし、それを、8月3日、8月30日、そして本回の10月4日と3度に分けて扱った。各回では、それぞれ解題・報告担当が冒頭に文献の概要を整理して報告し、その後、参加者全体で議論を行った。 本文献を講読したことにより、参加者のメンバーのうち、クルド研究やイスラエルのマイノリティ研究に従事するメンバーにとって、特に有意義な機会になり、今後の学位論文や投稿論文にも活かすことができる視座を得ることができた。それ以外のメンバーにとっても、耳学問の機会として非常に有意義な会にできたと自負している。
②	◆開催日／Date of Event	2025年(year)10月(month)12日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	研究会発起ミーティング
	◆概要／Summary	本年度新たに予算を獲得し継続となった本研究会の発起ミーティングを行なった。会では、研究会代表者の井上が本研究会の趣旨等について説明したのちに、メンバー同士で自己紹介、本研究会の運営方針の進め方に関する議論を行った。
③	◆開催日／Date of Event	2025年(year)10月(month)12日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	タネゼミ企画（修論タネゼミ）
	◆概要／Summary	今年度、本研究会には修士論文を執筆予定のメンバーが3名いることから、それぞれの論文の進捗状況や内容に関して議論を行う機会を設けた。会では、過年度に修論を執筆し、現在博士後期課程に所属していたり、独立研究者として活動したりするメンバーも集ったことで、広く指摘・批判等がなされ、今後の学位論文の執筆と完成のための建設的な議論を行うことができた。
④	◆開催日／Date of Event	2025年(year)10月(month)27日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	読書会企画（イスラーム主義分科会主催、政治学分科会との共同開催）
	◆概要／Summary	本イスラーム主義読書会は、他の読書会分科会とは異なり、前年度採択終了（2025年2月）後も、月一回のペースで会を継続実施してきた（2025年3月～9月）。本回では、普段取り扱うイスラーム主義（宗教と政治・暴力・非暴力等）に関わる

		<p>テーマから少し派生した、政軍関係に関わる文献を講読対象とし、読書会の政治学分科会との共同開催という形で、会を実施した。冒頭に解題・報告担当者が文献の概要および、読書会という場で議論を深めたい論点を提示し、その後それを元に参加者全体で議論を行った。</p> <p>総じて、本会は政軍関係や軍とナショナリズムをテーマとするメンバーにとって特に有意義な機会となったほか、それ以外のメンバーにとっても自身の研究を相対化する耳学問の場として有意義な会にできた。</p>
⑤	◆開催日／Date of Event	2025年(year)11月(month)19日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	読書会企画（イスラーム主義分科会）
	◆概要／Summary	<p>今回は、メンバーの一人が専門とする「エジプトのサラフィー主義と政治」というテーマで近年刊行された、『Twilight of the Saints: The History and Politics of Salafism in Contemporary Egypt』を講読の対象文献として選定した。会では、このテーマを専門とする上記のメンバーが文献の解題・報告を担当し、冒頭に本書の概要および、読書会で議論するための広範な論点を提示し、その後それを元に参加者全員で議論を行った。</p> <p>今回は、イスラーム主義を専門とするメンバーが集ったこともあり、非常に有意義かつ面白い議論や討論を行うことができた。また、会では必ずしもサラフィー主義と政治に限らない広範な論点提示がなされており、他の地域や他の組織を専門とするメンバーにとっても、今後の自身の研究にも活かすことができる視座を得ることができた。</p>
⑥	◆開催日／Date of Event	2025年(year)12月(month)20日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	読書会企画（イスラーム主義分科会）・タネゼミ企画（博論タネゼミ）
	◆概要／Summary	<p>本会は、メンバーの一人が執筆した博士論文のドラフトの対象文献として選定し、それに対する講評とフィードバックを行うことを目的に実施された。会では、博論ドラフトの執筆者が解題と報告を担当し、その後、参加者全員で議論を行なった。</p> <p>今回は、報告者の博士論文の問題関心と比較的近しい、中東地域の政治と宗教の関係を研究するメンバー以外にも、広く政治学やナショナリズム研究を行うメンバーも集ったことから、広範かつ本質的なフィードバックを受けることができた。本会で受けたフィードバックをもとに、報告者・執筆者は抜本的な博士論文ドラフトの改稿を行い、2026年4月20日の学位申請締め切りに向け、それを完成させ、学位申請を行う。総じて、今回は読書会としてだけではなく、研究会の企画の一環として実施しているタネゼミとしても有意義な会となった。</p>
⑦	◆開催日／Date of Event	2026年(year)1月(month)18日(day)
	◆会場／Venue	オンライン
	◆テーマ／Theme	読書会企画（イスラーム主義分科会）
	◆概要／Summary	<p>本会は、メンバーの一人が本年度執筆・提出した修士論文を課題文献として読書会を実施した。会では本論文を執筆したメンバーが文献の解題・報告を担当し、その後それを基に参加者全員で議論を行った。</p> <p>本会では、各参加者から様々な視角から批判・コメントが提示されたことで、本論文執筆メンバーの今後の研究および論文投稿に向けて有意義な議論となった。また、上記の批判・コメントは他参加者の研究にとっても有益なものであったことから、各人の研究にも資する会になったと確信される。</p>
⑧	◆開催日／Date of Event	2026年(year)2月(month)13日(day)

	◆会場/Venue	オンライン
	◆テーマ/Theme	読書会企画（イスラーム主義分科会）
	◆概要/Summary	<p>本会では、メンバーの一人が博士論文執筆後の研究構想内容と関連する、「デジタル・イスラーム」や「宗教インフルエンサー」といったテーマの網羅的なレビュー、その理論的枠組みの可視化から、分野全体の見取り図を包括的に提供した論文を、講読の対象文献として選定した。会では、このテーマを掘り下げようとする上記のメンバーが文献の解題・報告を担当し、その後、それをもとに参加者全員で議論を行った。</p> <p>会では、同テーマを「デジタル宗教」や「デジタル・イスラーム」といった、いわば箱庭に閉じ込めて議論するのではなく、より普遍的な現象、すなわち「押し/ファンダム」や「インフルエンサー」研究として議論する必要性も話題に挙がり、こうした作業に必要となる概念や関連文献についても情報交換を行うことができた。</p>
⑨	◆開催日/Date of Event	2026年(year)2月(month)18日(day)
	◆会場/Venue	立命館大学東京キャンパスおよびオンライン
	◆テーマ/Theme	第3回 GSMEIAS 研究報告会（日英バイリンガル国際ワークショップ）
	◆概要/Summary	<p>本会は、メンバー個々人が修士論文・博士論文の一環として遂行する研究について紹介し、フィードバックを得る機会を提供することを目的に開催された。</p> <p>今年度は10名のメンバーが研究発表を行い、各自の研究に関する活発な議論が行われた。本会で得られたフィードバックを基に、発表者それぞれが今後の論文・MISC等の執筆につなげることが強く期待される。</p>
⑩	◆開催日/Date of Event	2026年(year)2月(month)22日(day)
	◆会場/Venue	東京外国語大学本郷サテライトおよびオンライン
	◆テーマ/Theme	現代中東研究コロキウム第12回研究会（共催企画）
	◆概要/Summary	<p>本会は、現代中東政治研究ネットワーク（CMEPS-J）および立命館大学中東・イスラーム研究センター（CMEIS）により主催され、GSMEIASも共催として加わった。</p> <p>本会では3つの報告が行われ、そのうちの一つはGSMEIAS所属メンバーによるものだった。</p> <p>各報告後に質疑応答の時間が設けられ、活発な議論が行われた。次年度も同研究会は開催予定であり、GSMEIASも共催として加わる予定である。</p>
⑪	◆開催日/Date of Event	2026年(year)2月(month)26日(day)
	◆会場/Venue	早稲田大学戸山キャンパスおよびオンライン
	◆テーマ/Theme	読書会企画（マイノリティ・非国家主体分科会）
	◆概要/Summary	<p>本会は、「The Politics of Nation-Building: Making Co-Nationals, Refugees, and Minorities」（Harris Mylonas 2012）の第1章および第2章を講読した。二人のメンバーがそれぞれ報告を行い、その後、全体で議論を行った。</p> <p>本書で提案された理論は、ホスト国家のエリート（中核集団）・非中核集団・外部勢力の3つのアクターの相互関係を軸にネーション・ビルディングの政治を分析するものであった。また本書は先行研究（国際政治というディシプリン）の課題にうまく結びつけており、単純かつ明快であるため様々な国民国家に一見適用しやすい。一方、メンバーそれぞれの研究分野・地域（イスラエル・シリア・トルコ）・対象において例外となるような地域固有の文脈/状況を本書の議論といかに接合していくかが課題として残った。参加メンバーの総意として、具体的には、本書が提示した外部勢力というアクターのカテゴリを各メンバーの研究内容といかに結びつけるかについて今後も引き続き検討していく必要がある、ということが挙げられた。</p>

### 3. 研究会活動の内容・および成果／Details and achievements of society events

#### ◆問題意識、解明すべき課題等／Problem of consciousness among society members, issues to be solved etc.

本研究会の目的は、中東・イスラーム地域を対象に研究を行う大学院生が、各々の遂行する実証研究の更なる高度化を図ることである。この目的を達成すべく、前年度はメンバーの研究関心に照らし合わせ、同地域のイスラーム主義・マイノリティ/非国家主体・政治学の理論的側面を扱った研究書・論文の読書会（助成を受けた半年間で、計 4 回オンライン開催）・研究報告会（年度末に 1 回対面開催、現代中東政治研究ネットワーク、および立命館大学中東・イスラーム研究センター共催）・「タネゼミ」（計 2 回オンライン開催）を通じて以下の 2 点を目指した。

- ①メンバー自身にとっての「地域研究」像とは何か・どのようなものか、そこでは既存の社会科学の諸ディシプリンとどのような関係を取り結ぼうとしているのかを言語化できるようになること。
- ②メンバー自身の研究をいかにして「より広いコンテキスト」のなかに位置付けることが可能かを、研究会メンバーとともに各企画やワークショップ等を通じて模索することで、成果発信能力を強化すること。

研究会の企画の一環として実施した読書会・研究報告会・「タネゼミ」はいずれも成功を収めたが、以下のような課題が浮き彫りとなった。

- ・得られた研究成果を口頭発表のみならず、研究者として実質的に評価される、査読論文等の学術的刊行物として公開・出版することにつながる必要がある、ということ。

上記の課題を受けて、本研究会では本年度も引き続き、①各自が「地域研究」像を明確にし、かつ言語化できるようになること、②自身の研究を「より広いコンテキスト」のなかにいかにして位置づけられるのかを模索すること、に加え、以下の点に重点を置いて活動した。すなわち、得られた研究成果を口頭発表としての研究成果発信に留めず、それを最終的には論文として形にし、投稿・採録にこぎつけるためのシームレスな体制を築き上げること。

#### ◆具体的な研究内容／Specific research activities

上記の問題意識・目的を達成すべく、今年度は、①（メンバー自身の「書く」活動に資するための）読書会ワークショップ、②対面形式での研究報告会、③「タネゼミ」、④論文進捗報告会の 4 つの企画を軸に活動した。採択期間中、各企画を定期的実施し（「2. 研究会開催報告」を参照）、所属するメンバーが進める研究にとって有益となる活動の展開に努めた。④論文進捗報告会を除く、採択期間中の各企画の開催回数は以下のとおりである。

- ①（メンバー自身の「書く」活動に資するための）読書会ワークショップ 7 回
- ②対面形式での研究報告会 1 回
- ③「タネゼミ」 2 回

その他、採択開始直後の 10 月に研究会発起ミーティングを実施し、今年度の研究会の運営方針に関する議論がなされた。また、現代中東政治研究ネットワーク（CMEPS-J）・立命館大学中東・イスラーム研究センター（CMEIS）の主催で、2 月に開催された「現代中東研究コロキウム第 12 回研究会」に共催として加わった。

#### ◆研究成果あるいは成果／Research achievements or results

今年度は研究会全体として、学術雑誌等または商業誌における解説・総説 7 本（うち査読付き 3 本）、国内研究会・シンポジウム等における発表 29 本（うち査読付き 7 本）が研究成果として発表された。また、メンバー 3 名が学位論文（修士論文 3 本）を提出した。その内容に基づく学会・研究会発表や論文投稿の準備が進められていることから、他のメンバーによるものも含めて、来年度も一定以上の研究成果が出るのが期待される。

#### ◆研究成果の発表実績（学会、学会誌等への発表等あれば記入してください。）

Research Achievements released to the public (presentations at academic conferences, publications in academic journals etc.)

##### ● 学術雑誌等または商業誌における解説・総説

東佑太、「イスラエルの国境強化を担うユダヤ移民たち：インド出身のユダヤ共同体『ブネイ・メナシェ』の入植動向から」世界政経調査会国際情勢研究所事務局編『国際情勢 紀要』第 96 号、2026 年。（査読なし・2026 年 3 月刊行予定）

法島香月、「2023 年トルコ大統領・議会選挙における親クルド政党とクルド系有権者の動向 —HDP から YSP への移行と党勢の後退—」日本イスラム協会編『イスラム世界』102 巻、37-67、2025 年。（査読あり）

- 法島香月. 「2024 年トルコ統一地方選挙における親クルド政党の二面性: 『第 3 の道』と『都市合意』」世界政経調査会国際情勢研究所事務局編『国際情勢 紀要』第 96 号、2026 年. (査読なし・2026 年 3 月刊行予定)
- 山岡陽輝. 「グローバル化時代のイスラーム主義: 解放党 (ヒズブ・タフリール) の事例」世界政経調査会国際情勢研究所事務局編『国際情勢 紀要』第 96 号、2026 年. (査読なし・2026 年 3 月刊行予定)
- 米田優作. 「イスラーム過激派との差異化を図るサラフィー主義組織: 現代エジプトにおけるダアワ・サラフィーヤのジハード観を手掛かりに:」日本オリエント学会編『オリエント』第 68 巻第 1 号、41-60、2025 年. (査読あり)
- ETTAWY, Mohamed. "Al-Azhar's Role in Palestinian Reconciliation: Symbolic Legitimacy and Religious Mediation in the Hamas–Fatah Conflict." Graduate School of International Relations, Ritsumeikan University (ed.) *RITSUMEIKAN INTERNATIONAL AFFAIRS* 21: 1-26. 2025. (査読あり)
- ETTAWY, Mohamed. "Al-Azhar as a Political Mediator in Post-Revolutionary Egypt: Fieldwork Insights." Center for Middle Eastern and Islamic Studies (ed.) *CMEIS Report* 16. 2026. (査読なし)

### ● 国内研究会・シンポジウム等における発表

- 奥庭玲. 「トルコ政治表象としてのミュージアム: 『7.15 クーデター博物館』を巡る問い」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 仇真. 「サウジアラビアにおける労働力自国民化政策と企業の適応戦略: 中国系企業を事例に」現代中東研究コロキウム第 11 回研究会、明治大学和泉キャンパス、2025 年 7 月 19 日 (査読なし・口頭発表)
- 仇真. 「サウジアラビアの労働力自国民化政策の下における中国人労働者のトランスナショナルな移動」日本国際政治学会 2025 年研究大会、神戸国際会議場、2025 年 10 月 19 日 (査読あり・口頭発表)
- 東佑太. 「ユダヤ性をめぐるマイノリティの交渉: インド系ユダヤ『ベネ・イスラエル』に関する議論に着目して」2025 年度中東☆イスラーム教育セミナー (第 21 回)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2025 年 9 月 19 日. (査読なし・口頭発表)
- 東佑太. 「ナショナル・アイデンティティを問い直す: 『誰がユダヤ人か』論争とベネ・イスラエルの社会運動」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 久永優吾. 「中東における憲法秩序再考」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 久永優吾. 「非民主主義体制における司法の役割: 権利擁護による抵抗の可能性」上智大学 2025 年度大学院生・若手研究者イニシアティブによるシンポジウム・ワークショップ: 非民主主義国家における「法の支配」: 権利概念はどのように解釈・適用されるか?、上智大学四ツ谷キャンパス、2026 年 2 月 21 日 (査読なし・口頭発表)
- 久永優吾, 法島香月. 「トルコ政治における人権保障: 『中心』と『周辺』の両視点から」2025 年度大学院生・若手研究者イニシアティブによるシンポジウム・ワークショップシリーズ: 非民主主義国家における「法の支配」: 権利概念はどのように解釈・適用されるか?、上智大学、2026 年 2 月 21 日 (査読なし・口頭発表)
- 藤永凜. 「シリアのアサド政権によるパレスチナ問題の位置づけと変化」2025 年度中東☆イスラーム教育セミナー (第 21 回)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2025 年 9 月 20 日 (査読なし・口頭発表)
- 藤永凜. 「内戦後のシリア新政権によるナショナル・アイデンティティの再構築: 改訂教科書の内容分析から」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 法島香月. 「エルドアン政権期の親クルド政党による「トルコ市民化」路線の変遷: 政権と他の野党との関係に注目して」第 41 回日本中東学会年次大会、北海道大学、2025 年 5 月 18 日 (査読あり・口頭発表)
- 法島香月. 「誰がクルド人を代表するのか: トルコのクルド民族運動における武装組織と議会政党」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 法島香月. 「『トルコの政党』と『クルド民族政党』の間で: AKP 政権下の親クルド政党による『トルコ市民化』路線の分析」現代中東研究コロキウム (Contemporary Middle Eastern Studies Colloquium) 第 12 回研究会、東京外国語大学本郷サテライト、2026 年 2 月 22 日 (査読なし・口頭発表)

- 前田琉成。「第一次インテリゲンチヤダ期におけるハマースの国家観・宗教観の変遷：リーフレットの批判的ディスコース分析 (CDA) を通じて」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- 山岡陽輝。「論理としてのタクフィール主義：解放党に見るその援用」第 74 回合同論文指導研究発表会、慶應義塾大学三田キャンパス、2025 年 6 月 27 日。(査読なし・口頭発表・英語発表)
- 山岡陽輝。「イスラーム主義組織「解放党」のトランスナショナルな性格とその影響」日本国際政治学会 2025 年度研究大会、神戸国際会議場、2025 年 10 月 17 日。(査読あり・口頭発表)
- 山岡陽輝。「イスラーム主義・ポピュリズム・国際政治：解放党 (ヒズブ・タフリール) の事例から」第 3 回 GSMEIAS 研究報告会 (日英バイリンガル国際ワークショップ) 立命館大学東京キャンパス、2026 年 2 月 18 日 (査読なし・口頭発表)
- ETTAWY, Mohamed. "Al-Azhar as a Mediator in MENA Conflicts: Religious Authority and Political Engagement." International Workshop "Exploring Transnational Intellectuals and Non-State Actors in the Middle East" Ritsumeikan University Kinugasa Campus (Japan), 8<sup>th</sup> May, 2025. (査読なし・口頭発表)
- ETTAWY, Mohamed. "Al-Azhar as Mediator: Religious Authority and Political Conflict in Post-2011 Egypt." Asia Pacific Conference 2025 "Rediscovering Cooperation in a Fragmenting World", Ritsumeikan Asia Pacific University (Japan), 29<sup>th</sup>, November, 2025. (査読なし・口頭発表)
- ETTAWY, Mohamed. "Al-Azhar's Role in Promoting Community Peace and Societal Security: A Case Study of the Global Al-Azhar Academy for Training Imams, Preachers, and Fatwa Researchers." 3rd GSMEIAS Colloquium (JP/ EN ) Bilingual Workshop. Online venue, 18<sup>th</sup>, February, 2026. (査読なし・口頭発表)
- FUJINAGA, Rin. "Post-Conflict State Building in Syria: Focusing on the HTS Government Initiative and the People's Reaction." International Workshop: "Exploring Transnational Intellectuals and Non-State Actors in the Middle East". Ritsumeikan University Kinugasa Campus (Japan), 8<sup>th</sup>, May, 2025. (査読なし・口頭発表)
- INOUE, Kento. "Yemeniness in the Ideology of the Huthi Movement (Anṣār Allāh): Between 'Local Movement' and 'Iran's Militia'", International Workshop: "Exploring Transnational Intellectuals and February Actors in the Middle East", Ritsumeikan University Kinugasa Campus (Japan), 8<sup>th</sup>, May, 2025. (査読なし・口頭発表)
- INOUE, Kento. "The Rise of the Huthi Movement (Anṣār Allāh) in Contemporary Yemen: Transformations of Ideology and Actions in the Post-Husayn Era." 3<sup>rd</sup> GSMEIAS Colloquium (JP/ EN ) Bilingual Workshop. Ritsumeikan University Tokyo Campus (Japan), 18<sup>th</sup>, February, 2026. (査読なし・口頭発表)
- NAMIUCHI, Shiun. "Governance System of De Facto States: 'Legal Development' of the Kurdish Organization in North-East Syria and US Intervention." The 28th World Congress of Political Science, IPSA: International Political Science Association (South Korea), 13<sup>th</sup>, July, 2025. (査読あり・口頭発表)
- YAMAOKA, Haruki. "Hizb ut-Tahrir's Religious and Sectarian Identities and Their Role in the Conflict: Taking a Cue from the Logic of Takfirism" Pre-IPSA World Congress Workshop, RC43 Religion and Politics, IPSA; Social Science Research Institute, International Christian University (Japan), 20<sup>th</sup>, June, 2025. (査読なし・口頭発表)
- YAMAOKA, Haruki. "Hizb ut-Tahrir's Religious and Sectarian Identities and Their Role in the Conflict: Taking a Cue from the Logic of Takfirism" 28th IPSA World Congress of Political Science, International Political Science Association (IPSA), Coex Convention & Exhibition Center (South Korea), 14<sup>th</sup>, July, 2025. (査読あり・口頭発表)
- YAMAOKA, Haruki. "Why Do Radical Islamists Reject Violent Jihad?: The Case of Hizb ut-Tahrir" ISA Virtual Conference 2025, International Studies Association (ISA), Online venue, 1<sup>st</sup>, August, 2025. (査読あり・口頭発表)
- YAMAOKA, Haruki. "Hizb ut-Tahrir as an Anti-Globalist Movement" Middle Eastern and Islamic Studies in Japan: The State of the Art (No.15), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo university of Foreign Studies, Japan Center for Middle Eastern Studies (JaCMES) (Lebanon), 28<sup>th</sup>, November, 2025. (査読あり・口頭発表)
- YONEDA, Yusaku. "Beyond Organizations and Movements?: Individual-level Religious Entrepreneurs and the Reconfiguration of Salafi Discursive Authority in Contemporary Egypt." 3rd GSMEIAS Colloquium (JP/ EN ) Bilingual Workshop. Ritsumeikan University Tokyo Campus (Japan), 18<sup>th</sup>, February, 2026. (査読なし・口頭発表)

◆研究会活動を運営する上で、実際にかかった年間経費額 (「万」単位の概算で可)

The actual annual expenses incurred to run the society. (Please specify the approximate amount in units of 10,000 yen.)

旅費：100,000 円

年度末の 2 月 18 日に立命館大学東京キャンパスにて対面研究報告会が実施された。その際にかかる、立命館メンバーの京都・東京間の移動費として計上された。メンバーには、助成額 10 万円を対面参加者の頭数で均等に割った額 (25,000 円×4 名) が支給された。

合計：100,000 円